

島根県 ICT 総合戦略策定委員会（第 2 回）

議事概要

1. 日時：令和 3 年 8 月 11 日(水)13:30～15:00

2. 場所：島根県職員会館 多目的ホール

3. 次第

(1)開会

(2)島根県挨拶

(3)議題

・島根県 ICT 総合戦略（素案）の検討

(4)意見交換

4. 出席者：別紙「出席者名簿」のとおり

5. 議事要旨

【目的について】

村上委員

- 最初の目的のところだが、島根創生の実現というのは目的としていいと思うが、もう少し何を実現したいのかという目的を書くべき。デジタル化の加速とあるが、これは目的ではなく、手段である。
- 全体的に目的と手段が混在していることが気になる。例えば、マイナンバーカードの普及、手続きのオンライン化、AI-RPA の活用、オープンデータの活用、効率的な情報発信など、これによって何をやりたいのか目的を明確に書くべき。何のためにやるのかという目的をまずはきちんと書いておかなければ、取組は進めにくい。

岩井委員

- 計画は実行されてこそ意味があるため、目指す方向性が理解できるように、具体的かつ簡潔に示すことが重要。その上で視覚的に理解しやすいように、図や絵を使うことも有効。
- 今後市町村において、情報化推進計画の改定を控えている中で、このたびの県の戦略は、市町村にとっても参考になるものであり、ぜひわかりやすく見やすいものとしていただきたい。

余島委員

- この計画を全て実現したあと、私の生活とか、漁師さんの生活とか、行政の方の働き方がどう変わってるんだろうというイメージが正直持てない。身近な年配の方が、実際にどう楽になっているとか、どういうふうに、使いこなせてるかまでが、想像できなかった。
- 島根県がどのように良くなり、リアルに私生活がどう変わり、便利になるというのが、見える戦略に最終的になることを望む。

【優先順位について】

吉岡副会長

- 今回の戦略は、県の今までの計画等との整合性を取る必要があり、また非常に広範囲な内容になっており、予算や人員などが関係してくると思うが、優先順位を付けられているか。

事務局

- 予算や人員のこともあるため、早急に進めていかないといけない課題については、優先順位を付けて

やっていきたいと考えている。

吉岡副会長

- 優先順位を付ける上で重要な視点は、人口減少の問題であると思う。島根県の人口が 60 万人を切る時は、数年のうちに来ると思う。60 万人を切ったときの課題を浮き彫りにすれば、優先順位や非常に重要なことが見えてくるはず。今の戦略案は、そのような視点で作成できているか。

【行政の効率化、市町村への支援について】

吉岡副会長

- 少子高齢化に伴い働き手の不足が懸念され、行政の効率化を進めないといけないという中で、島根県として市町村業務の効率化を推進する目的で、市町村の広域連合化を推進してきたと思うが、今後そのような行政の効率化を組織的に進めていく計画というのはあるのか。

事務局

- 関係部局とも確認していきたい。

村上委員

- 市町村への支援だが、現在の書きぶりでは足りない。県民サービスの向上や、行政の効率化を図る上で、県内市町村の果たす役割は極めて大きい。単なる連絡調整とか情報交換とか研修の実施とかでなく、県と市町村が一体となって取り組むとか、広域行政を推進するとか、共同化を推進するとか、もっとやるべきことがたくさんあると思う。
- 素案に行政の効率化が書かれているのは良いが、その具体的な中身が文書管理システムと、電子決裁の二つだけの記載であり、これでは DX が進まないと思う。行政の効率化を行うためには、職員の意識改革とか人事制度改革とか結構多岐に渡るはず。行政内部でデジタル完結を実現するための手段について、もう少し掘り下げて書く必要があると思う。

【人材育成について】

吉岡副会長

- この戦略を推進する上で人材育成の観点が必要となるが、職員全体に対しては研修等で ICT のレベルアップを図るという点が良いと思うが、推進役を育てるという観点が必要なのは。

事務局

- 推進役をどう育てていくかということは、確かに今はそういう視点で書いていないが、現在、島根県では CIO 補佐官という民間出身の方を今年から 3 名配置をしており、推進役として業務を行ってもらっている。しかし、今後のことを考えていくとこの体制だけでいいのかという問題意識もあるため、もう少し情報の専門家を育てていくという視点も検討していきたい。

野田会長

- 人材育成のところは、一つ章立てしても良いぐらいのところ、三重県の政策では、三本柱の一つで人材育成も挙げている。

村上委員

- 職員の育成は大変重要だが、専門家を中途採用し、しかも、常勤職員ではなく、兼業の非常勤職員で、例えば東京とか大阪、福岡にいる人が島根県のために働くという、そういう形で人材を確保しないと、間に合わないかもしれない。

【デジタルデバインドについて】

三上委員

- スマホは今やデジタル化を推進する上で不可欠なものとなっており、シニアネットで高齢者のスマホの普及率を調べたところ相当数普及していることがわかったが、アプリの活用はほとんどなく、メール、電話、カメラでの利用のみということであった。スマホはパソコンと違って機種が多種多様であり、機種ごとに講座を設ける必要があり、またそもそも講師になる人を見つけにくく、なかなか苦慮しているところ。
- 高齢者がICTを学ぶ機会をどんどん作っていけるような具体的な策というものを、今後施策集の中でも盛り込んでいただければ。

佐竹委員

- 美郷町でも、スマホ講座なども行われているようであるが、人口が少ないことから、最近では公民館の職員とか、地域の役の方などが個別に相談対応するのが良いのかなと感じている。

野田会長

- 第5章のデジタルデバインド対策ですけど、ちょっと弱いのかなと感じたところ。自治体DXを進める中で、それらの行政サービスを全県民が、1人も取り残されることなく受けられるようにするためには、第5章をもう少し深めてほしい。
- 高齢者の方へのスマホの普及率は高まってきている中、スマホのアプリをうまく活用できないと、行政サービスだけでなく一般のサービスも使えないため、そこら辺の対応が必要かなと感じた。

【情報公開の推進について】

吉岡副会長

- 行政がいろいろ集計したデータにおいて、市町村レベルでの集計データでは、範囲が広すぎて情報としては使いにくい。公民館の区域ぐらいの範囲でのデータであれば、よりいろいろなことが見えてくると思うが、そこまで範囲を狭めると個人情報の関係で、なかなか提供できないということがあると思う。民間企業として利用価値の高い情報というのは、できるだけメッシュの細かいデータであるが、そのへの公開についてはなんとかならないものか。

事務局

- データを利用する企業からすると、できるだけ狭い範囲のデータのほうが利用しやすいというのは、最もだと思う。ただ個人が特定できるようなデータになってはいけないということもあるため、公開の方針も個別の分野ごとで考えていく必要があり、今後の検討課題とさせていただきたい。

【地域性について】

吉岡副会長

- ある地域によってはそんなに大きな問題じゃないけど、この地域だったら非常に重要な課題だとか、そういうものがあるはずであり、地域性についてもう少し取り入れてもよいかもしれない。

野田会長

- 中山間地域の交通の部分が大きな課題だと思っており、今後、ライドシェア事業によって対応できないかなど、施策集の中で触れると良いと思う。

【DXについて】

岩井委員

- DXをもっと前面に出してもいいのでは。ICT利活用が目的ではなくて手段で、目的はやはりDXの推進、DXによって付加価値を生み出すことではないか。素案の中でICT活用という言葉が多く出てくるが、DXに置き換えてもよいのでは。国がDXを推進する中で、今の内容は、過年度計画を踏襲した内容。ICT活用とDXの定義を今一度明確にして、目指すべき方向性を明確にすることが必要ではないか。しかし、我々自治体内でもDXはまだ浸透しておらず、まずは研修等を行い、DXとは何かを推進する立場の者がしっかりと理解をすることが必要。

【島根らしさについて】

佐竹委員

- 島根県という、日本で一番人口が少なく田舎の県ということから、もっと島根らしさを出した戦略にしてもいいのでは。島根県の地域性・県民性に合った独自のものを作らなければ、戦略は実質的に進まないのではないか。

【マイナンバーカードについて】

吉岡副会長

- マイナンバーカードの普及がデジタル化において重要な要素であるが、島根県としての目標値とか、推進活動というのを積極的にやる上で、国とは別の取り組みをされる予定があるか。

事務局

- 今後マイナンバーカードを活用したデジタル化への対応に必要となる中で、県としても市町村と連携して普及啓発を地道に行っていきたいと考えている。

以上

島根県 I C T 総合戦略策定に係る策定委員会（第 2 回）

出席者名簿

日時：令和 3 年 8 月 11 日（水）

13 時 30 分～15 時 00 分

場所：島根県職員会館 多目的ホール

<策定委員会メンバー>

(敬称略・順不同)

団体・法人名、職名	氏名
益田市政策企画課行革推進室 室長	岩井 加恵
美郷町情報・未来技術戦略課 課長	佐竹 一輝
島根大学法文学部 教授	野田 哲夫
シニアネットはまだ 副会長	三上 聖子
(株)三菱総合研究所コンサルティング部門デジタル・イノベーション本部 ICT デイ戦略グループ 主席研究員	村上 文洋
(一財)島根県情報産業協会 名誉会長	吉岡 宏
シルクスクリーン工房 代表	余島 睦美

<事務局>

(敬称略・順不同)

所属	職名	氏名
地域振興部	部長	藤井 洋一
〃	情報政策課 課長	原 圭子
〃	〃 調整監	岡崎 國郎
〃	〃 グループリーダー	柁 博
〃	〃 グループリーダー	増田 達彦
〃	〃 グループリーダー	山本 隆昌
〃	〃 グループリーダー	今田 淳次
〃	〃 企画員	遠藤 裕介
〃	〃 主任	杉浦 祐太
〃	〃 主任	金築 民男
政策企画局	政策企画監室 政策調整監	細田 智子
〃	〃 企画員	月森 亮

以上